

聖書日課 『からし種』 2026.1.18–1.25

1月18日 (日)	「その一部を細かく碎いて粉末にし、粉末の一部を、臨在の幕屋の中の捷の箱の前に置く。わたしはそこであなたに会う」(36節)。主がモーセに会うと言われた臨在の幕屋に入るには条件があった。水で手足を洗い清める。聖別の油で臨在の幕屋の中のものを聖別する。聖なる香料を捷の箱の前に置くなど。これらが整ったところで主はモーセたちと会われた。
19日 (月)	「安息日を守りなさい。それは、あなたたちにとって聖なる日である」(14節)。十戒にも大切な事として書かれている。それは、わたし(主)があなたたちを聖別する主であることを知るためのものである(13 節)。この根拠としては、「主は六日の間に天地を創造し、七日目に御業をやめて憩わされたからである」(17 節)。わたしたちは主の復活の日を大切にして礼拝する。
20日 (火)	「わたしの裁きの日に、わたしは彼らをその罪のゆえに罰する」(34節)。モーセがシナイ山での神との時が長く、不安になったイスラエルの民は金の子牛を拝むという偶像礼拝の罪を犯す。神は怒り、すべてのイスラエルの民を滅ぼそうとされるが、モーセの説得で思い直される。だが、神は裁きの日に彼らを裁かれるという。おさまらない神の怒りを感じる。
21日 (水)	「主は人がその友と語るように、顔と顔とを合わせてモーセに語られた」(11節)。イスラエルの民の偶像礼拝に激しく怒られた神はモーセのとりなしで怒りは和らいだが、主は民と共にには行かないと言われた。しかし、臨在の幕屋に於いてモーセとは話をされた。主はモーセの願いを聞き入れ、自ら同行し、モーセに安息を与えると言われ、好意を示された。

メール配信登録メール senfkorn.abc@gmail.com

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2026.1.18–1.25

22日 (木) 出エジ プト記 34章	「十の戒めからなる契約の言葉を板に書き記した」(28節)。モーセは主から指示されたとおり二枚の石の板を持って、再びシナイ山へ登った。そして戒めの再授与を受けた。その後、40日後に下山して、すべての民に神の語られた言葉を伝え、固く守ることを命令した。しかし、イスラエルの民は主を悲しませる結果となって行くことを聖書は語る。。
23日 (金) 出エジ プト記 35章	「六日の間は仕事をすることができるが、第七日はあなたたちにとって聖なる日であり、主の最も厳かな安息日である」(2節)。安息日に仕事をする者は死刑に処せられる。厳しい規程であるが、主の安息を覚えることは人間にとっても非常に大切なことだろう。自分たちが生かされている意味を問い合わせ、造り主を覚え、心と体に平安を与えられる主に感謝しよう。
24日 (土) 出エジ プト記 36章	「知恵と英知を主から授けられ、聖所の建設のすべての仕事を行うに必要な知識を与えられた」(1節)。聖所建設の仕事を担うために選ばれたベツアルエルとオホリアブ、またそれに携わった人々は、主から知恵と英知、必要な知識を与えられた。きっと、今もわたしたちに主は知恵と英知と知識を与え、必要な仕事や奉仕を担えるようにしているのだろう。
25日 (日) 出エジ プト記 37章	「ベツアルエルはアカシヤ材で箱を作った。寸法は縦2・5アンマ、横1・5アンマ、高さ1・5アンマ」(1節)。ベツアルエルは掟の箱や机、燭台、祭壇などを、先の25章に記された「設計図」通りに忠実に製作した。求められていることは「神の設計図」(ヘブライ11・10参照)への信頼と忠実。毎週の主日礼拝はこの「神の設計図」に心の照準を合わせること。